

チケット料金

〈公演〉
大人…………… 2,000円
18歳以下…………… 500円
中学生以下…………… 無料

〈イワン食堂〉
当日クーポン券を販売します

チケットのご予約は、電話、ウェブ、電子メールでお受けします。
料金をご来場時にお支払いください。
電話/0857-84-3268 ウェブ/www.birdtheatre.org
電子メール/ticket@birdtheatre.org

サポーター募集

2018年度サポーター寄付のお願い
もらう、がんばる、世界を変える。

2017年度は214人の方から526口(263万円)のご支援を賜り、「多目的トイレの新設とその他バリアフリー対応」「劇場機材の更新・充実」に使わせていただきました。本当にありがとうございました。
2018年度は「施設の老朽部分の直しやバリアフリー化」「観劇環境の向上」「劇場機材の更新・充実」を行いたいと考えています。皆様ご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。

【会費】一口:5,000円から。複数口も歓迎です。
実績報告書をご送付し、活動報告会(翌年度初め)へご招待申し上げます。

【期間】2018年4月1日から2019年3月31日まで
※会費は1月までいつでもお受けいたします。2月からは次年度の会費としてお受けします。

【お問合せ】鳥の劇場(担当:高橋/中川)
〒689-0405 鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1812-1
電話・ファックス/0857-84-3268
電子メール/info@birdtheatre.org
ウェブ/www.birdtheatre.org

宿泊について

鹿野温泉

□山紫苑 0857-84-2211 www.sanshien.jp
□お宿夢彦 0857-84-2411 www.yumehiko.co.jp
0120-610417

浜村温泉

□旅風庵 0857-82-0531 www.ryofuan.com
□浜村温泉 魚と屋 0857-82-2400 www.oyado-totoya.jp/hamamura

吉岡温泉

□吉岡温泉旅館組合 0857-57-0800 www.yoshiokaonsen.com

主催:特定非営利活動法人鳥の劇場
後援:鳥取県 鳥取市 鳥取県教育委員会 鳥取市教育委員会 NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター 新日本海新聞社 株式会社ふるさと鹿野
助成:文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 公益財団法人ごうきん鳥取文化振興財団

上演をもっと多くの方に楽しんでもらうために

- 送迎します
JR浜村駅と劇場との間を車で送迎いたします。(無料、要予約)
- 託児します
小さいお子さまをお預かりします。(無料、要予約)
- 鳥のカフェがあります
上演の前後にコーヒーや各種ソフトドリンクなどを販売いたします。
- バリアフリーをめざします
障がいのある方にもご覧いただけるよう、適宜対応しております。ご連絡ください。
- 字幕あります
セリフが聞こえづらい方のために、手に持てる小さい"字幕"をご用意しております。

鳥の劇場へのアクセス

鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1812-1 電話:0857-84-3268

■JRを使って

劇場の最寄り駅はJR浜村駅です。※公演日は浜村駅と劇場の間を、車で送迎いたします(無料、要予約)。

- 浜村駅まで・鳥取駅から、山陰本線、米子方面行きで30分
・倉吉駅から、山陰本線、鳥取方面行きで25分
・米子駅から、山陰本線、鳥取方面行きで1時間40分
- 浜村駅から・車で15分

■車を使って

- 公演日は会場近くに案内看板を設置します。
- ・鳥取自動車道、鳥取西ICから約30分
- ・鳥取空港から約30分
- ・鳥取市中心部から約40分
- ・倉吉市中心部から約50分
- ・米子市中心部から約1時間30分

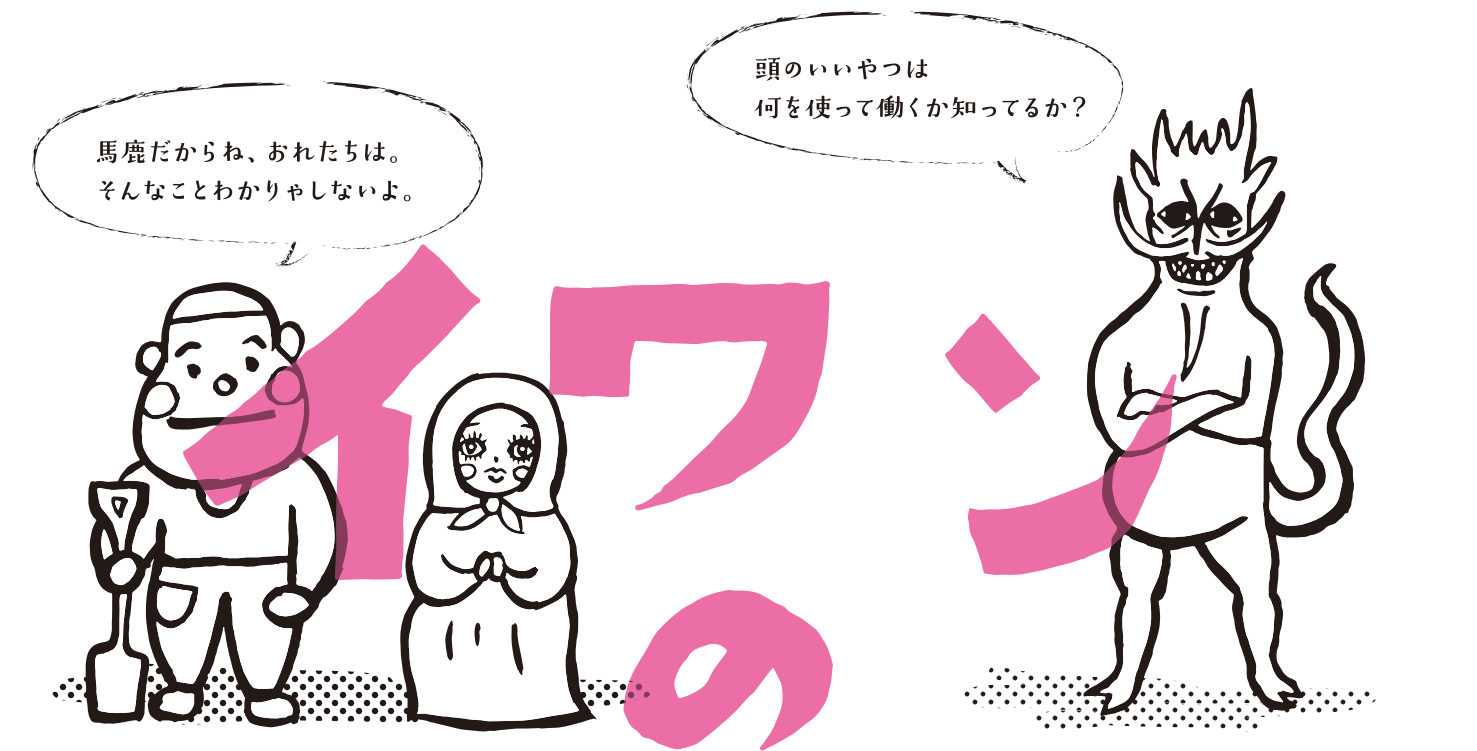


東京・大阪・神戸・京都・広島・福岡の各都市と鳥取の間で高速バスが運行しています。

- 東京 飛行機 約1時間15分(羽田空港-鳥取空港)
JR 約5時間30分(東京駅-鳥取駅)
- 京都 JR 約3時間(京都駅-鳥取駅)
車 約3時間(中国自動車道-鳥取自動車道)
- 大阪 JR 約2時間30分(新大阪駅-鳥取駅)
車 約2時間30分(名神高速道路-中国自動車道-鳥取自動車道)
- 岡山 JR 約2時間(岡山駅-鳥取駅)
車 約2時間45分(国道53号-鳥取自動車道)

鳥の劇場2018年度プログラム<創るプログラム>

昨年の上演がとても好評だったので、今年もやることにしました。この作品は、「ばか」がテーマのばかばかしい作品です。変な歌があったり、ふざけた場面もたくさんあります。というか、たいていがふざけた場面です。でも、「我々の生き方、これでいいの?」と問かける文明批評的なところもあって、子どもから大人まで、幅広く楽しんでいただける作品です。前回ご覧いただいた方も、きっとまた楽しんでいただけます。今回は、関連企画として「食」のイベントもやります。イワンの世界とリンクしながら、地域の自然の恵みの豊かさを、体感してください。



BIRD Theatre Company TOTTORI

IVAN THE FOOL

Original Story by Lev Nikolayevich Tolstoy
Written by Nagayama Tomoyuki
Directed by Nakashima Makoto
2:00PM on April 26th, 27th, 28th, 29th,
and on May 1st, 2nd, 3rd, 4th, 5th, and 6th, 2018

Place: BIRD Theatre
1812-1 Shikano, Shikano-cho, Tottori City, Tottori Prefecture 689-0405
Tickets
19 years old and over, 2000yen
16 to 18 years old, 500yen
*Junior high school pupils and under, free admission

Contact
E-mail: info@birdtheatre.org
Telephone: 0857-84-3268
Website: www.birdtheatre.org

2018年4月26日(木)~29日(日・祝)/5月1日(火)~6日(日)
会場:鳥の劇場(鳥取県鳥取市鹿野町 電話0857-84-3268)

関連企画
戯曲講座「トルストイの寓話を読んで、ちょっと演じる」
トルストイの寓話の一つを取り上げ、読み、少し演じてみることを通じて、その魅力を探ります。
講師/中島諒人(鳥の劇場芸術監督) 日時/4月20日(金)19:00~21:00
会場/ギャラリー鳥たちのいえ(鳥取市本町1丁目201 ミュースピル 電話0857-51-0710) 料金/1,000円(資料代を含む)

上演と関連した「食」のイベントも行います。

鳥の劇場2018年度活動テーマ:100年先を考えよう、100年前を思い出そう。よき思いが未来を作る。

イワンの ばか

原作：L.トルストイ
台本：永山智行（劇団こぶく劇場）
演出：中島諒人

2018年4月26日(木)～29日(日・祝) / 5月1日(火)～6日(日)

〈物語について〉

1885年にロシアの文豪トルストイによって書かれた素朴で漫画みたいなお話。働き者で無欲な農民イワン。二人の兄は、猛烈な軍人と強欲な商人。口のきけない妹がいて、二人は毎日コツコツ畑仕事をして暮らしている。そんなイワンに大悪魔が目をつけ、彼を破滅させるべく、三人の小悪魔を差し向ける。しかし、イワンの純真さにより三悪魔はなぜか撃退され、さらに奇妙なことに、イワンは王の娘をめぐり国王になってしまう。怒った大悪魔はイワン国に直接乗り込んでくるのだが、イワンの価値観がしみわたった王国の住人たちは、ぬかに釘とどうか、ピント外れとどうか。

いよいよ怒った大悪魔は、隣国の大統領をそそのかし、兵器と兵隊を投入してイワン王国の破壊を企てる。

台本は、宮崎で活躍する劇作家、永山智行さんが担当してくれました。

原作の魅力を引き出しながら、見事に演劇世界を作ってくれました。

永山智行

1967年生れ。劇作家、演出家。宮崎県の三股町と門川町を拠点に活動する劇団こぶく劇場代表。2001年『so bad year』でAAF戯曲賞受賞。2006年から約10年間、公益財団法人宮崎県立芸術劇場の演劇ディレクターを務め、「演劇・時空の旅シリーズ」の企画・演出などを手がけた。

いいお話だったし、おもしろかったです。イワンがとてもやさしいと思いました。兄などあやうがイワンやイワンの国の人たちを「バカ」と言ったのがひどいと思いました。
(サの子)

4歳と7歳の子供と旦那と四人で観にきました。効果音の使い方や舞台を有効に使い、配きることなく最後まで見ることができました。
(40代女性)

悪魔は私たちひとりひとりの中に住んでいるのだということに、気づくのは大切だと思います。
(50代女性)



(鳥の劇場芸術監督 中島諒人)

昨年の
来場者の声

いつも豪快で楽しみに劇場へ来ています。ばかであること、手を汚すこと、その意味を考えさせてくれる劇でした。
(30代男性)

やっていることがおかしかったです。とくにこあくまのいたずら?のようなことに、とてもうけました。
(男の子)

劇場内の作りや舞台装置などを見るのもおもしろかったです。
(20代女性)

2018年度活動テーマ「100年先を考えよう、100年前を思い出そう。よき思いが未来を作る。」

鳥の劇場では、世界や地域の状況、年ごとの活動の蓄積などを踏まえ、年度ごとに活動テーマを定めています。

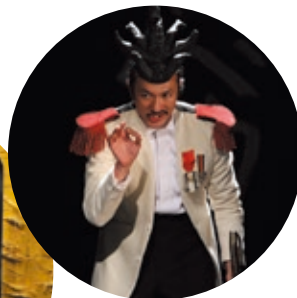
2018年の100年前は、第一次世界大戦が終わった年。それを機に、世界は二度と戦争をしないと誓いました。が、その後の混乱や悲惨を我々は知っています。100年前の時代、アメリカが世界の中心となりました。大衆化や都市化、大量生産、大量消費が始まったタイミングでもあります。「今」が始まったのがおよそ100年前。およそ100年前に芽吹いた色々な動きが、自らの力で暴走を始めてしまい、その制御ができなくなっているのが現在だと言うこともできるでしょう。

30年で一代として、100年先は三世代先。三世代先に何を残すか。人口が少なく、テクノロジーが今ほどではなく、自然に支配されていた時代、人間が未来に与えられる影響力は小さいものでした。しかし、テクノロジーと資本という巨大な力による文明が大きな曲がり角を迎えている現在、我々が何を避け何を捨て、どんな未来の道を選ぶかは、これから生まれてくる世代にとって本当に重要な意味をもつでしょう。何しろ我々は、未来の世代から承認を得ないまま、彼らにさまざまな負債(国の借金、環境の破壊、放射性廃棄物などなど)を残そうとしているのです。

1918年を振り返りながら、2118年を思う。そんなダイナミックなこと、普通しませんよね。でも、そういう日常をはるかに超えた思考の場として、劇場は大きな力をもつのだと思います。

初めて拝見しました。刺さりましたね。劇場って、魅力があるんですね。だから刺さったのかもしれません。
(40代女性)

すなおでばかで偉を使ってはたらいて人のためになっているからすごいと思った。みんなびょうどうだからイワンの国に行きたい!
(男の子)



『イワンのばか』を“食”で体感

— 鹿野あたりの食の恵みをゆるり味わうタベ —

『イワンのばか』は、人が自然の中で調和的に生きることの豊かさを語っている作品です。

鳥の劇場がある鹿野町周辺は、山と海の恵みにあふれるまち。

旬の食材をおいしい料理にして、さらに深く「ばか」を味わう「イワン食堂」です。

一品300円～500円程度でいろいろな料理やビールを楽しんでいただけます。

できるだけご予約ください(チケットご予約時にお申込みいただけます)。

4月29日(日・祝) / 5月5日(土・祝) 17:00～19:00

生産者の方々にもお越しいただき、お話を聞きます。



お米
(白川さんちのおいしいお米)

東京でサラリーマンをやっていた白川大介さんが、2014年に鹿野町に移住して、鷲峰山のふもとでつくっているお米。冷たくきれいな水で育ったお米は、粒立ちがよく、冷めてもおいしいのです。



クラフトビール
(アカリ・ブリューイング)

今年4月、鹿野町内に醸造所がオープン。お隣の気高町の特産品であるショウガを使った「ジンジャー・ブラウン・エール」をはじめ、地元の農産品を使ったビールづくりにこだわっています。



タケノコ
(はらだ農産)

鹿野の人たちが「原田さんのタケノコ」と呼んで一目置くタケノコ。その名も「竹姫」。やわらかい赤土で育ち、香りがよく、食感も最高。あく抜きをしなくてもそのまま食べられます。



鳥取地どりピヨ
(ふるさと鹿野)

鳥取県のオリジナルブランド地鶏。恵まれた自然環境の中で育った鶏肉は、程よい歯ごたえで、かむほどにコクと旨味が味わえます。特に鹿野で育ったものは別名「鹿野地鶏」とも呼ばれ大人気。